

ジャガイモそうか病対策のための土壌酸度管理における土壌pH(KCl)指標

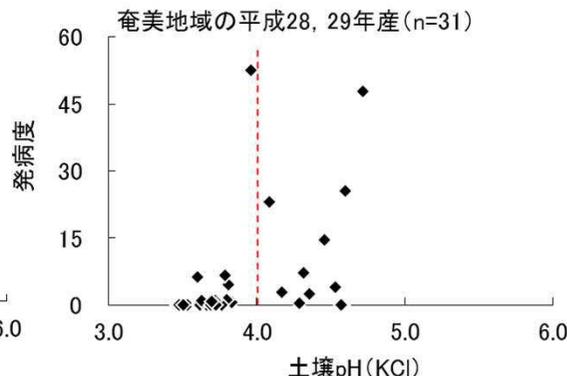
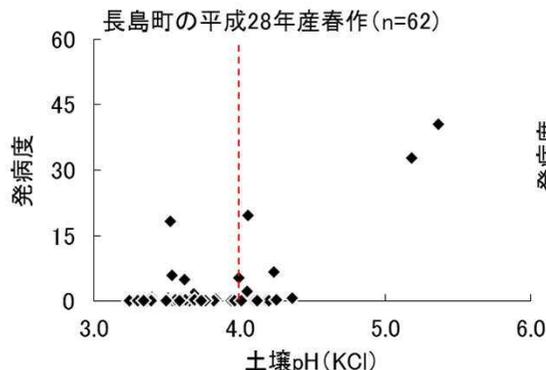
バレイショほ場では、土壌pH(KCl)4.0を指標に土壌管理を行うことで、過度な土壌の酸性化を回避できる

背景・目的

- ・ 本県のバレイショ産地では、ジャガイモそうか病防除のため石灰質肥料の施用を控える傾向から、ほ場の低pH化が進行
- ・ 過度な土壌の酸性化はバレイショの収量低下や輪作品目のサツマイモで生育不良を引き起こすことが懸念
- ・ 土壌pH(KCl)とジャガイモそうか病の発病との関係性を明らかにし、病害対策を考慮した適正な土壌酸度管理が必要

成果の内容

- pH(KCl)とジャガイモそうか病の発病には相関があり、pH(KCl)4.0が発病の分岐点となる！



- 黄色土での酸度矯正による萌芽改善！



苦土石灰施用 pH(KCl)4.3
無処理 pH(KCl)3.4

- ポット試験でもpH(KCl)4.0はジャガイモそうか病の発生を抑制！



無処理 pH(KCl)3.6
炭カル100kg/10a施用 pH(KCl)3.9
炭カル300kg/10a施用 pH(KCl)5.0

導入
メリ
ット

☆ジャガイモそうか病の抑制

→ 罹病塊茎の廃棄率 2 割減

☆適正な土壌酸度管理の実施

→ バレイショの生育不良回避

→ 輪作サツマイモの生産安定



収量・品質向上＝所得向上

注) ジャガイモそうか病菌には、pH (KCl) 4.0以下でも発病する耐酸性菌があり、土壌酸度管理以外に種いも消毒や土壌水分管理の対策が必要

普及対象・範囲

長島町、奄美地域の赤黄色土壌のバレイショ産地

期待される効果

適正な土壌酸度管理により、ジャガイモそうか病の発病抑制とともに、収量、品質が向上し、かごしまブランド産地の維持発展が期待